
「ずる休み」

巡芳もとめ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「ずる休み」

【Nコード】

N0535Y

【作者名】

巡芳もとめ

【あらすじ】

会社をずる休み。世界から取り残された気分。罪悪感と寂しさ。

私の存在は消えてゆく。残像だけ残されていく。

会社をずる休みして、しとしとと静かに耳をかすめる雨の音を聞きながら、私は布団の中で凍えうずくまる。

世界から取り残されてしまった気分。世界から切り離れた気分。ずる休みした」

彼に一言メール。

彼は今頃会社だ。偉いな。

その時、ピンポンとインターホンが鳴った。

布団を頭からかぶったまま、布団の裾を引きずっておずおずと力なく玄関に出る。

「．．．．．おまえ、何て格好で出てんだよ」

彼が笑いをこらえて言う。

私の部屋に普通に入っていく彼。

何でいるの？ 心の中で質問。

こたつに入る彼を横目に、彼の言葉を待つ私。きつとテレパシーで通じたはず。

「俺もずる休みしたとこだったんだよね」

ほらね、通じてた。

彼の手にはコンビニの袋。中身はおでん。

相変わらず布団を頭からかぶったまま無言でこたつに入る私。

「いつまでその格好？ カオナシみたいなんだけど」

また笑う彼。

カオナシのままおでんをつつく私。

私の世界はここにある世界が全世界。私の世界を構成してくれるあなた。

「あったかいね」

涙をこらえてつぶやく私。

だな、とおでんを食べながら答える彼。

あなたの笑顔があつたかいね。

(後書き)

¥50の本も売れません(〃
〃)(てへ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0535y/>

「ずる休み」

2011年10月30日14時10分発行